

# 第2期佐久穂町コミュニティ創生戦略 策定に係る住民アンケート結果

令和2年1月に実施したアンケート結果を一部抜粋してお伝えします

## コミュニティ創生戦略とは

コミュニティへ参加する住民が多く、活動が活発であるほど、住民の幸福度が高まったり、経済活動が発展しやすいと言われています。

「コミュニティ創生戦略」とは、これまで各集落における活動や健康管理事業等で培われた多様な「コミュニティ」を町の強みと捉え、この強みをさらに住民と町が力を合わせて磨き、その魅力に人が集まる、そんなまちづくりを目指す戦略です。

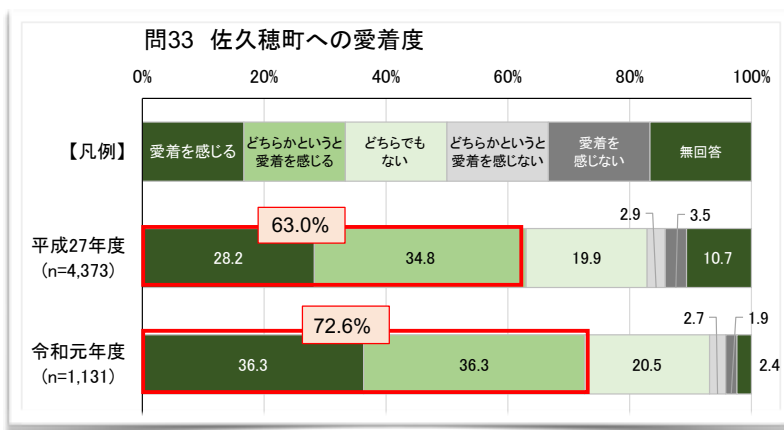
町は平成27～31年度（第1期戦略期間）にかけて、地域課題の解決に自律的に取り組むコミュニティの活動や設立に対して重点支援を行うことで、地域課題を解決し、魅力をつくるための活動を進めてきました。

本年度からは、第2期戦略期間(R2～6年度)がスタートしたところ です。

## アンケート調査概要

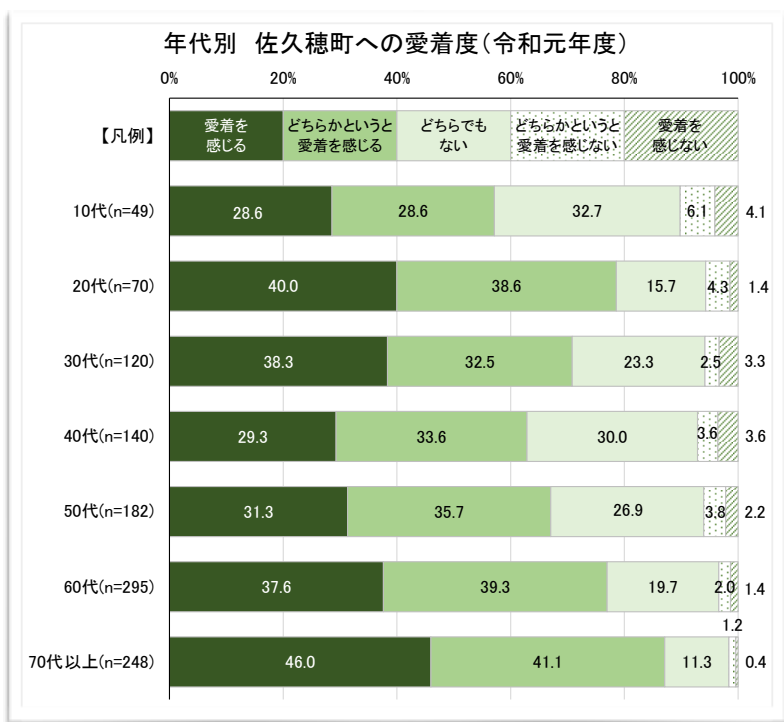
- 調査対象（無作為抽出）  
16歳以上男女2,000名
- 調査方法 郵送配布
- 調査期間 R2.1.10～2.7
- 有効回答数1,131票、白票1票  
回収率 56.6%

## 町への愛着を感じる人が増加



町への愛着を感じると回答している人の割合は、前回（平成27年度）の調査から9.6ポイント増加している。

年代別に見ると、「愛着を感じる」と「どちらかという愛着を感じる」を合わせた割合は、70代以上が最も高く、ついで20代、60代が高い。一方で10代、40代で低くなっている。



回答数を(n=)で表示しています



### こどもセンターさくほっこ

乳児から18歳未満の児童・生徒が安心して遊べる場、また妊娠期を含む子育て中の保護者や子育てサークルの皆さんが情報交換や交流の場として利用しています



### 学校応援団

地域が支える「学校応援団」を組織し、読書、安全パトロール、学習支援など小・中学生の学校活動

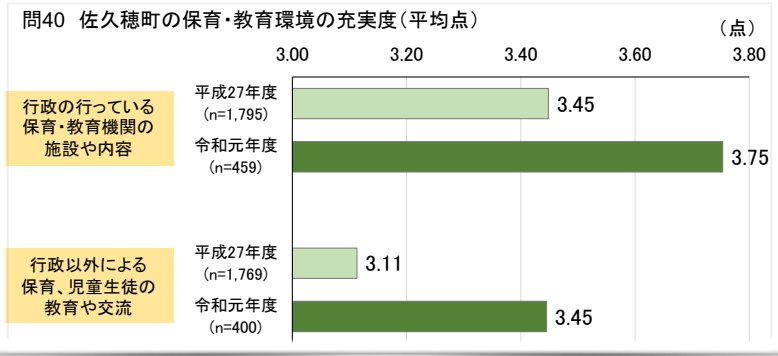
## 地区活動への参加が定住意向や居住満足度に効果アリ？！

アンケート結果によれば、地区活動に参加している人は、参加していない人に比べ「定住意向」が2倍ほど高く、10代20代の分館活動への参加者は「居住満足度」が高いことが見られた。

若い世代に対して、地区活動への参加を促したり、参加の機会をつくることは効果的であると考えられそうだ。

## 子育て・教育の取組は評価が高い

問40 佐久穂町の保育・教育環境の充実度(平均点)

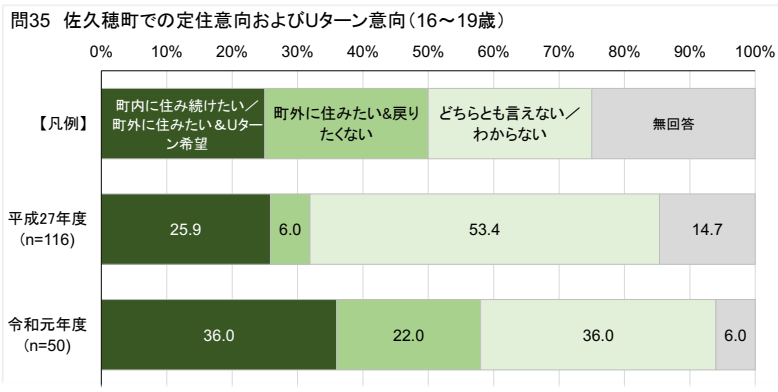


平成27年度の結果と比較すると、行政の取組も行政以外の取組も充実したと感じている人が増加している。

一方で、子育てに対する経済的な不安や高齢出産に対する不安があり、理想的な人数の子どもを持つことができないという意見もあった。

## 10代の定住・Uターン意向は上昇 一方、町外への転出意向も高まる

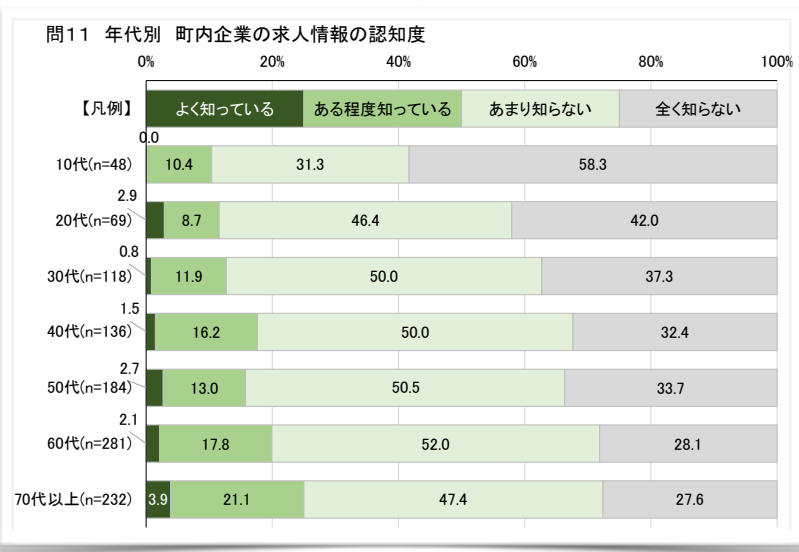
問35 佐久穂町での定住意向およびUターン意向(16~19歳)



16~19歳で「町内に住みたい、町外に出た後Uターンしたい」と考える人の割合は36.0%と前回調査よりも増加した。一方、「町外に住み、戻りたくない」と考える人の割合も増加している。

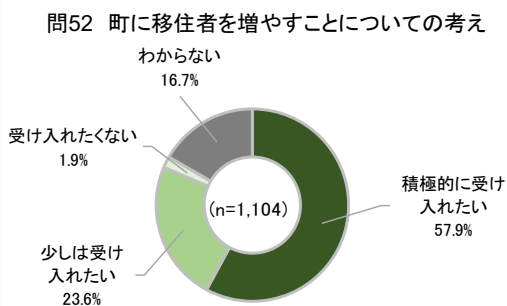
定住意向は通勤・通学先が遠いほど下がる傾向にあるが、高速道路の開通など交通環境の改善によって、通勤・通学がしやすくなったとの声が見られた。

# 若い世代の地域の求人情報に対する興味は喚起できていない



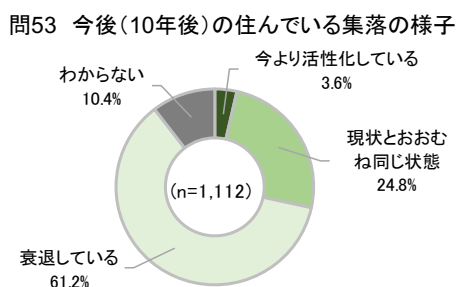
年代別に町内企業の求人情報の認知度を見ると、「全く知らない」の割合は10代で5割を超えており、年代が高くなるにつれて低下傾向にあるものの、全年代で「あまり知らない」「全く知らない」の比率が高い。

## 移住促進について8割が前向き

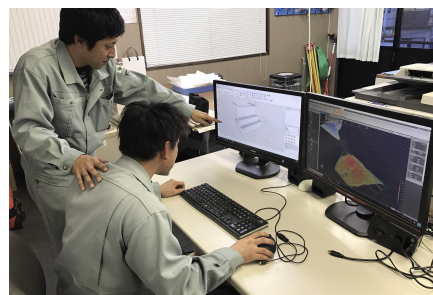


町に移住者を増やすことについて、「積極的に受け入れたい」「少しは受け入れたい」を合わせた割合は81.5%となっている。

## 10年後の集落は衰退している？



今後の住んでいる集落の様子を聞いたところ、61.2%が「衰退している」と回答し、「今より活性化している」は3.6%に留まっている。



### 企業インターンシップ制度

町内の企業では、夏休みに学生のインターンシップ(5日以上)を受け入れ、仕事内容や魅力などを伝える取組を始めています



### 空き家・空き地バンク

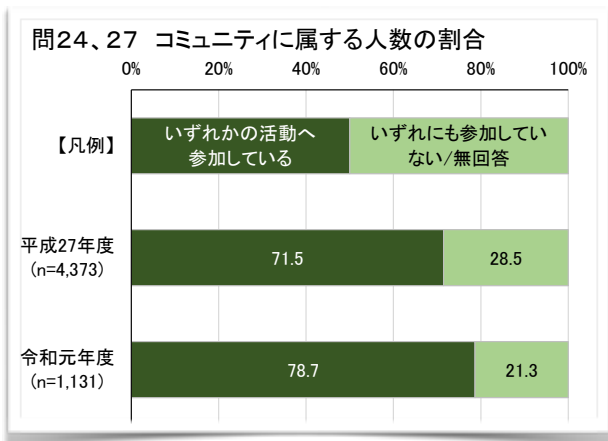
平成31年4月、大日向小学校が開校し、移住希望者が大きく増加。空き家のニーズが高まっています

## 集落の将来について話し合う必要性は感じている

集落の将来について「すでに話し合っている」と「今後、話し合う予定」を合わせた割合は8.4%に留まる。

しかし、「今のところ話し合う予定はない」「わからない」と回答した人の約7割が、話し合う必要性を感じていると回答している。

## 町民のコミュニティへの参加割合は増加



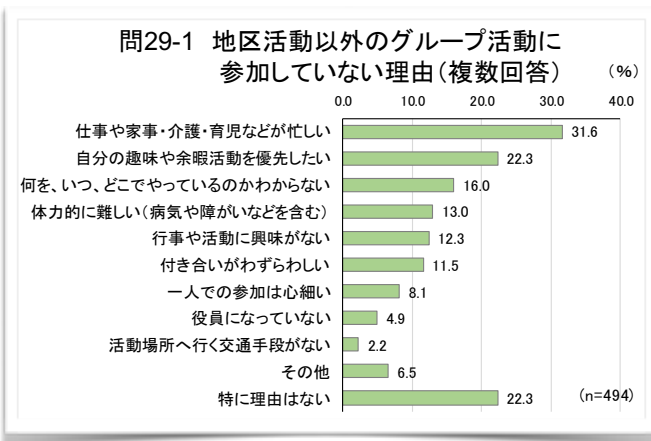
いずれかの地区活動や地区以外のグループ活動に参加する人の割合は増加。ただし、年代が低くなるほど、所属するコミュニティの数が少なくなる傾向にある。50代以上では、常会等を中心に所属するコミュニティ数が1人につき2つ以上となっている。

※地区活動、地区活動以外のグループ活動のいずれかに参加しているか、どうかで分類している。

- 地区活動:常会・区活動、常会役員、分館活動、青年部、女性部、高齢者クラブ、消防団、児童会・育成会、その他の地区活動
- 地区活動以外のグループ活動:スポーツ、趣味・娯楽、ボランティア、NPO、無尽、その他

## 参加していない理由とは

グループ活動に参加していないと回答した人の不参加理由としては、「仕事や家事・介護・育児などが忙しい」が31.6%で最も多く、ついで「自分の趣味や余暇活動を優先したい」「何を、いつ、どこでやっているのかわからない」が多い。



## 参加しやすくなるには



活動に参加しやすくなる条件としては、「自分にあった時間や内容の活動がある」が72.2%で最も高くなっている。

また、今後参加したい活動として「スポーツ、文化活動」「健康づくり」の声が多かった。



今回、アンケートにご協力いただきました住民の皆様には厚く御礼申し上げます。アンケート結果全体版は、町ホームページに掲載していますのでご覧ください。町では今後、アンケート結果を参考に、令和2年秋頃に第2期コミュニティ創生戦略の改訂を行う予定です。(R2.6月訂正後)

お問い合わせ先 佐久穂町役場 総合政策課 政策推進係

電話：0267-86-2553 メール：seisaku@town.sakuho.nagano.jp

アンケート結果  
全体版はこちら

